

日本労働年鑑 第52集 1982年版
The Labour Year Book of Japan 1982

第三部 労働政策

VI 労働判例の動向

概要

一、本年度の労働関係判例の動向を新規の提訴件数からみると、最近数年間の傾向に従って前年度よりさらに減少している。労働委員会に申し立てのあった不当労働行為事件についても同様である。

一、本年度に言い渡しのあった最高裁判決は総数一一件、すべて小法廷のもので、全通事件の一件(破棄)をのぞき、結論はすべて原判決を支持し、上告を棄却している。そのうち、注目すべき事件として全通事件、日産自動車事件、専売公社事件の三つをとりあげ、若干の解説と判決要旨をかかげる。

一、下級審でも重要な判決が多いが、紙数の制約上、下請派遣労働者の問題を扱ったサガテレビ事件および女子パートタイマーの労働災害の逸失利益算定につき主婦としての家事労働への貢献度も加味した損害賠償を認めた光工業製作所事件の二件をとりあげる。

日本労働年鑑 第52集 1982年版

発行 1981年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月18日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1982年版(第52集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)